

乳児期からの幼児教育について

大阪総合保育大学 大方美香

背景（保育をめぐる近年の状況）

- 「量」と「質」の両面から子どもの育ちと子育てを社会全体で支える「子ども・子育て支援新制度」の施行（平成27年4月）
- 子育て世帯における子育ての負担や孤立感の高まり、児童虐待相談件数の増加（42,664件（H20）→103,286件（H27））等
- 0～2歳児を中心とした保育所利用児童数の増加（1・2歳児保育所等利用率27.6%（H20）→38.1%（H27））

3歳未満児の保育

- この時期は他者との関わりを初めて持ち、その中で自我が形成されるなど、子どもの心身の発達にとって極めて重要な時期。この時期の保育の在り方は、その後の成長や社会性の獲得等にも大きな影響与える
- 社会情動的スキル（いわゆる非認知的能力）を乳幼児期に身に付けることが、大人になってからの生活に大きな差を生じさせるといった研究成果などから、乳幼児期、とりわけ3歳未満児の保育の重要性への認識が高まってきた

基本的信頼感の形成

- 乳児（0歳）から2歳児までの時期には、保護者や保育士など特定の大人との間で愛着関係が形成され、食事や睡眠などの生活リズムも形成されていく。また、この時期は、周囲の人や物、自然など様々な環境との関わりの中で、自己という感覚や、自我を育てていく時期でもある。
- 乳児期からの保育の積み重ねは、その後の成長や生活習慣の形成、社会性の獲得にも大きな影響を与えるものであり、子どもの主体性を育みながら保育を行うことが重要である。
- また、保育士等との信頼関係の構築により基本的信頼感を形成することは、生涯を通じた自己肯定感や他者への信頼感、感情を調整する力、粘り強くやり抜く力などの、いわゆる**非認知的能力を育むことにもつながる**ものであり、保育士等が子どものサインを適切に受け取り、子どもたちの自己選択を促しつつ、温かく応答的に関わっていくことが重要である。

保育者の質の重要性

- 保育の質の影響については、一貫してその質は3歳までのところでその発達に影響を与えていた。保育者の行動、特に言語刺激の量は子どもの影響があり
特には母親への影響が大きい
- 文献(NICHD Early Child Care Research Network ,2005)

- 第1章～第5章で構成。保育所における保育の内容及びこれに関連する運営に関する事項を定める。
- 厚生労働大臣告示（平成29年3月31日告示、平成30年4月1日適用）

第1章 総則

- 保育所保育が幼児教育の重要な一翼を担っていること等も踏まえ、「4. 幼児教育を行う施設として共有すべき事項」を定めるなど、保育所保育の基本となる考え方について記載。

1. 保育所保育に関する基本原則
2. 養護に関する基本的事項
3. 保育の計画及び評価
4. 幼児教育を行う施設として共有すべき事項

第2章 保育の内容

- 乳児、3歳未満児、3歳以上児の保育について、それぞれ、ねらい及び内容を記載。
- 特に、3歳以上児の保育について、幼稚園、認定こども園との整合性を確保。

1. 乳児保育に関わるねらい及び内容
 - ※「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」という視点から記載
2. 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容
 - ※「健康、人間関係、環境、言葉、表現」の5領域の視点から記載
3. 3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容
 - ※「健康、人間関係、環境、言葉、表現」の5領域の視点から記載
4. 保育の実施に関して留意すべき事項

第3章 健康及び安全

- 子どもの育ちをめぐる環境の変化を踏まえ、食育の推進、安全な保育環境の確保等について記載。

1. 子どもの健康支援
2. 食育の推進
3. 環境及び衛生管理並びに安全管理
4. 災害への備え

第4章 子育て支援

- 保護者と連携して「子どもの育ち」を支えることを基本として、保育所が行う子育て支援の役割等について記載。

1. 保育所における子育て支援に関する基本的事項
2. 保育所を利用している保護者に対する子育て支援
3. 地域の保護者等に対する子育て支援

第5章 職員の資質向上

- 職員の資質・専門性の向上について、キャリアパスを見据えた研修機会の充実なども含め記載。

1. 職員の資質向上に関する基本的事項
2. 施設長の責務
3. 職員の研修等
4. 研修の実施体制等

2. 改定の方角性を踏まえた構成の見直し

第1章 総則

- ① 保育所保育に関する基本原則
- ② 養護に関する基本的事項
- ③ 保育の計画及び評価
- ④ 幼児教育を行う施設として共有すべき事項

第2章 保育の内容

- ① 乳児保育に関わるねらい及び内容
- ② 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい
及び内容
- ③ 3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容
- ④ 保育の実施に関して留意すべき事項

2. 改定の方角性を踏まえた構成の見直し

第3章 健康及び安全

- ① 子どもの健康支援
- ② 食育の推進
- ③ 環境及び衛生管理並びに安全管理
- ④ 災害への備え

第4章 子育て支援

- ① 保育所における子育て支援に関する基本的事項
- ② 保育所を利用している保護者に対する子育て支援
- ③ 地域の保護者等に対する子育て支援

大人社会の変化は？ 子どもの生活の変化は？

子どもの
身体
性は？

大人社会の
何が
変わった？

子どもの
言語は？

子どもの
貧困は？

子どもの食
事は？

大人の
生活は？

子ども
が
出
会
う
大
人
は？

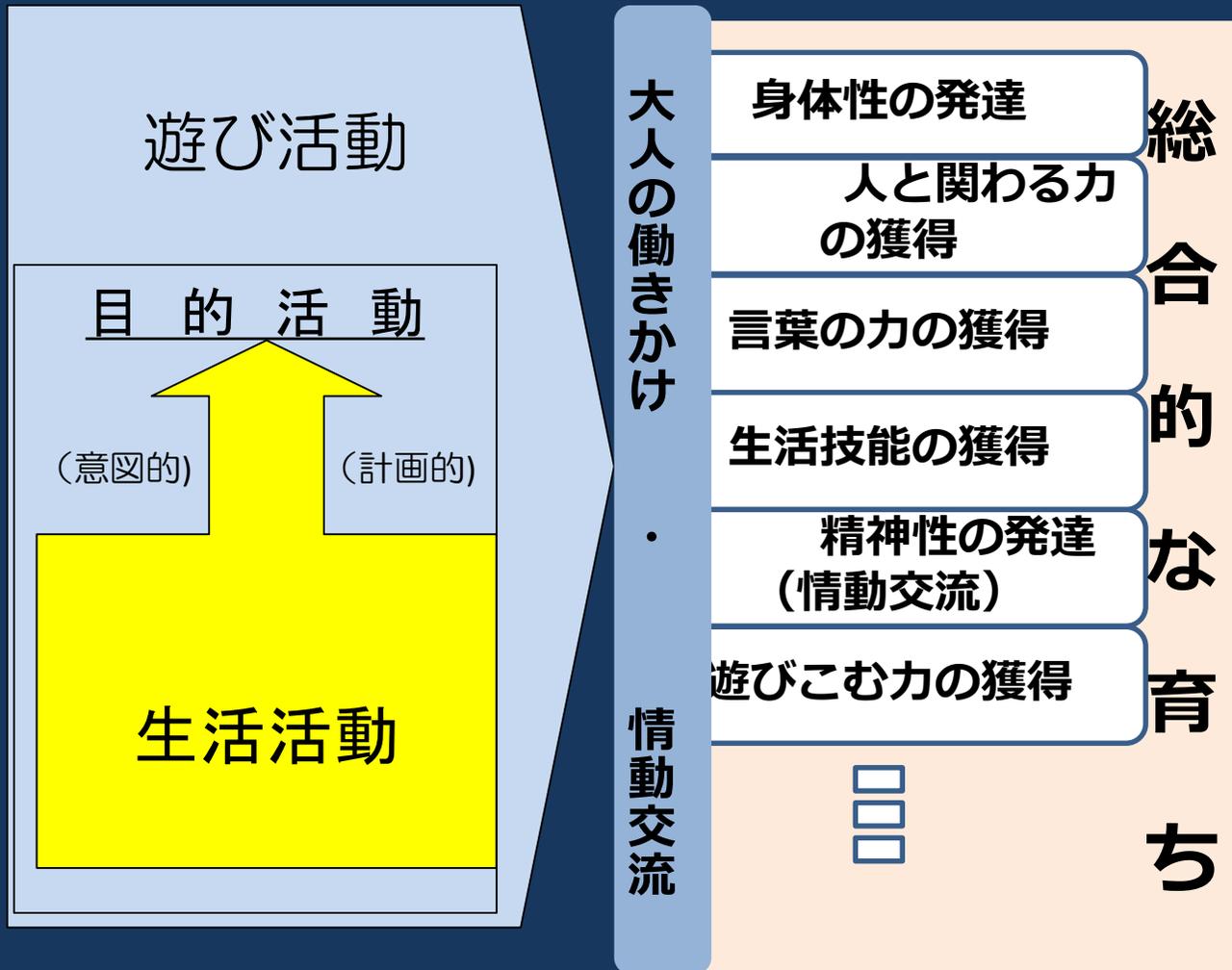
バリアフ
リーは？

乳幼児の家庭と文化を尊重する

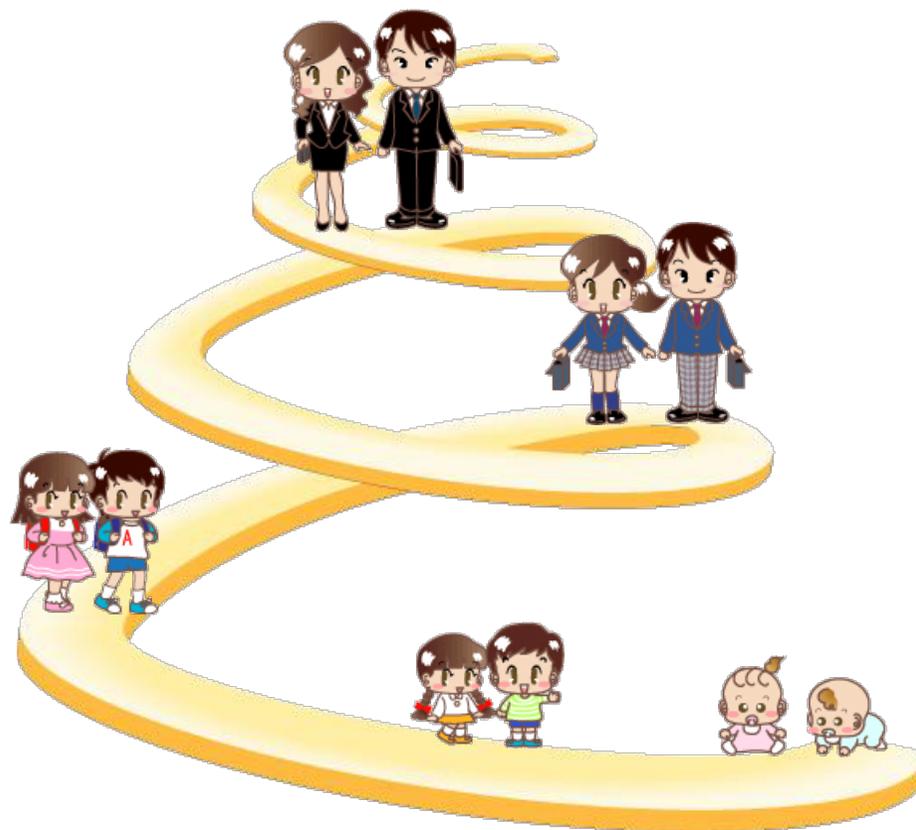
生活文化的な差異に
応答する保育をすること



子どもの生活・遊び



発達過程は、人間が育っていく道程



乳児・ ・ ・ 幼児・ ・ ・ 幼児期のおわり
・ ・ ・ 就学・ ・ ・

- 乳児保育と3歳未満児の保育の姿と、
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を提示する。
- 満3歳はそれに向けて発達していく過程としてとらえる。
- 年長後半から小学校へはその内容の主なところの発展としてとらえる。

幼児教育において育みたい資質・能力の整理

小学校
以上

知識・技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・人間性等

※下に示す資質・能力は例示であり、遊びを通しての総合的な指導を通じて育成される。

知識・技能の基礎

(遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか)

- ・ 基本的な生活習慣や生活に必要な技能の獲得 ・ 身体感覚の育成
 - ・ 規則性、法則性、関連性等の発見
 - ・ 様々な気付き、発見の喜び
 - ・ 日常生活に必要な言葉の理解
 - ・ 多様な動きや芸術表現のための基礎的な技能の獲得
- 等

思考力・判断力・表現力等の基礎

(遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)

- ・ 試行錯誤、工夫
- ・ 予想、予測、比較、分類、確認
- ・ 他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさ
- ・ 言葉による表現、伝え合い
- ・ 振り返り、次への見通し
- ・ 自分なりの表現
- ・ 表現する喜び 等

遊びを通しての総合的な指導

- ・ 思いやり ・ 安定した情緒 ・ 自信
 - ・ 相手の気持ちの受容 ・ 好奇心、探究心
 - ・ 葛藤、自分への向き合い、折り合い
 - ・ 話し合い、目的の共有、協力
 - ・ 色・形・音等の美しさや面白さに対する感覚
 - ・ 自然現象や社会現象への関心
- 等

学びに向かう力・人間性等

(心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか)

・ 三つの円の中で例示される資質・能力は、五つの領域の「ねらい及び内容」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から、主なものを取り出し、便宜的に分けたものである。

環境を通して行う教育

幼児教育

1. 保育所保育指針の改定の方角

(1) 乳児・1歳以上3歳未満児の保育に関する記載の 充実

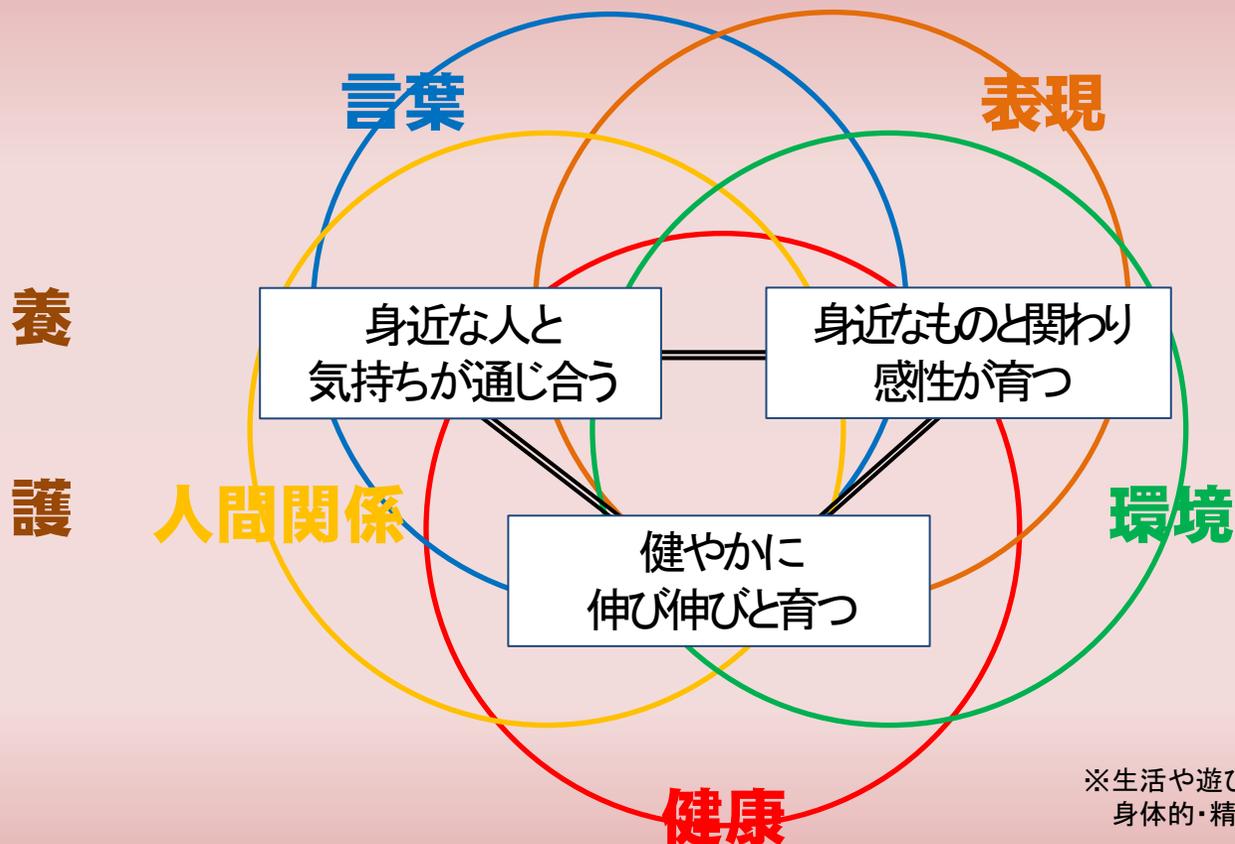
特に乳児保育（1歳未満）については、

「身近な人と気持ちが通じ合う」

「身近なものと関わり感性が育つ」

「健やかに伸び伸びと育つ」

0歳児の保育内容の記載のイメージ



○乳児保育については、生活や遊びが充実することを通して、子どもたちの身体的・精神的・社会的発達の基盤を培うという基本的な考え方を踏まえ、乳児を主体に、「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」「健やかに伸び伸びと育つ」という視点から、保育の内容等を記載。保育現場で取り組みやすいものとなるよう整理・充実。

○「身近な人と気持ちが通じ合う」という視点からは、主に現行指針の「言葉」「人間関係」の領域で示している保育内容との連続性を意識しながら、保育のねらい・内容等について整理・記載。乳児からの働きかけを周囲の大人が受容し、応答的に関与する環境の重要性を踏まえ記載。

○「身近なものに関わり感性が育つ」という視点からは、主に現行指針の「表現」「環境」の領域で示している保育内容との連続性を意識しながら、保育のねらい・内容等について整理・記載。乳児が好奇心を持つような環境構成を意識して記載。

小学校
以上

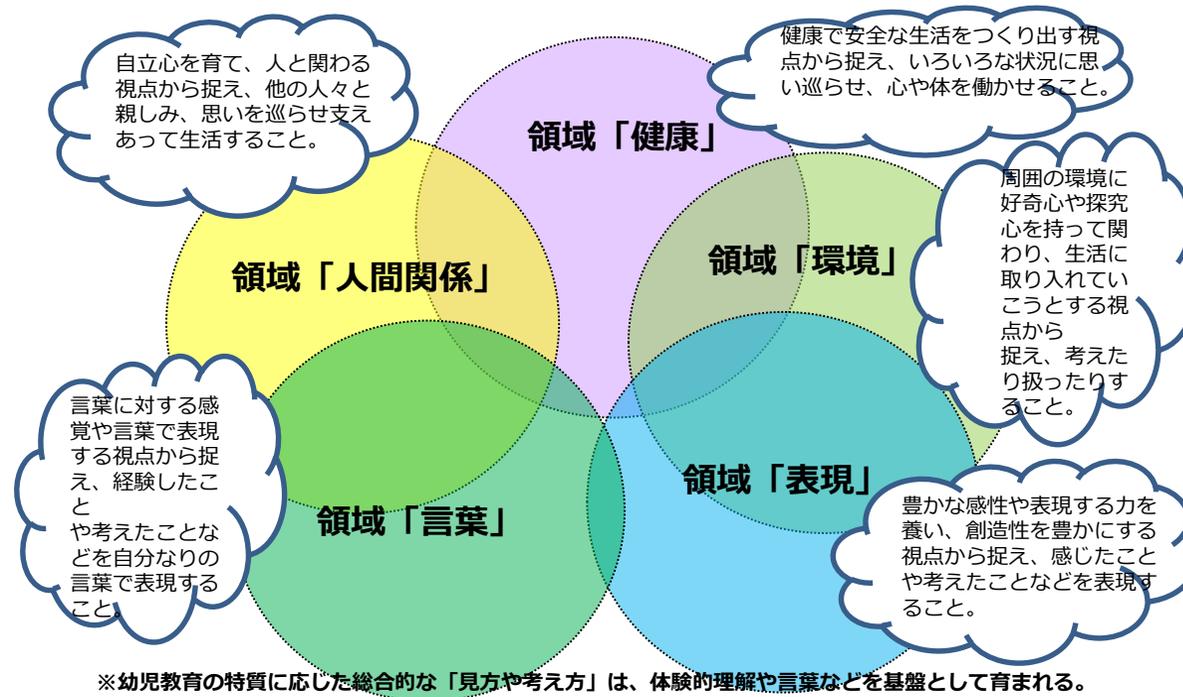
幼児教育

意図的・計画的な
人的・物的な環境の構成

各教科・領域等の特質に応じた「見方や考え方」

総合的な「見方や考え方」の育成

幼児期においては子供の発達の特徴を踏まえ、身の回りの様々な事象を各領域の観点から個別に捉えるのではなく、各領域の視点を併せ持つ、総合的な見方や考え方で事象を捉えることを目指している。便宜的に各領域の見方や考え方を示すと以下のとおりとなる。



教師の幼児一人一人の特性に応じた、
発達の課題に即した指導

遊びや生活を通じた総合的な指導

幼児教育

へ環境を通して行う教育

学びに向かう力・人間性等
(心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか)

- ・思いやり
- ・安定した情緒
- ・自信
- ・相手の気持ちの受容
- ・好奇心、探究心
- ・話し合い、目的の共有、協力
- ・葛藤、自分への向き合い、折り合い
- ・自然現象や社会現象への関心
- ・色・形・音等の美しさや面白さに対する感覚 等

・基本的な生活習慣や生活に必要な技能の獲得

- ・身体感覚の育成
- ・規則性、法則性、関連性等の発見
- ・様々な気づき、発見の喜び
- ・日常生活に必要な言葉の理解
- ・多様な動きや芸術表現のための基礎的な技能の獲得

等



- ・予想、予測、比較、分類、確認
- ・他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさ

- ・振り返り、次への見通し
- ・試行錯誤、工夫
- ・自分なりの表現
- ・表現する喜び 等

- ・言葉による表現、伝え合い

知識・技能の基礎
(遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか)

思考力・判断力・表現力等の基礎
(遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)



36ヶ月の発達過程における、
身体性、精神性の育ち、成長・発達、
情動交流・・・。

大人との関係
多様な影響を理解する



幼児教育

へ環境を通して行う教育へ

学びに向かう力・人間性等
(心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか)

- ・ 思いやり
- ・ 安定した情緒
- ・ 自信
- ・ 相手の気持ちの受容
- ・ 好奇心、探究心
- ・ 話し合い、目的の共有、協力
- ・ 葛藤、自分への向き合い、折り合い
- ・ 自然現象や社会現象への関心
- ・ 色・形・音等の美しさや面白さに対する感覚 等

・ 基本的な生活習慣や生活に必要な技能の獲得

- ・ 身体感覚の育成
- ・ 規則性、法則性、関連性等の発見
- ・ 様々な気づき、発見の喜び
- ・ 日常生活に必要な言葉の理解
- ・ 多様な動きや芸術表現のための基礎的な技能の獲得

等



- ・ 予想、予測、比較、分類、確認
- ・ 他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさ
- ・ 振り返り、次への見通し
- ・ 試行錯誤、工夫
- ・ 自分なりの表現
- ・ 表現する喜び 等

・ 言葉による表現、伝え合い

知識・技能の基礎
(遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか)

思考力・判断力・表現力等の基礎
(遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)

成長し、健康であること

発達と学びのねらい:

- 身体的に成長し、発達する
- 安全に生活する
- 健全な習慣を身につける
- 集団におけるルールや望ましい行動を学ぶ
- 微細・粗大筋肉をコントロールし、バランスがとれるようになる



幼児教育

へ環境を通して行う教育

学びに向かう力・人間性等 (心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか)

- ・思いやり
- ・安定した情緒
- ・自信
- ・相手の気持ちの受容
- ・好奇心、探究心
- ・話し合い、目的の共有、協力
- ・葛藤、自分への向き合い、折り合い
- ・自然現象や社会現象への関心
- ・色・形・音等の美しさや面白さに対する感覚 等

- ・基本的な生活習慣や生活に必要な技能の獲得
- ・身体感覚の育成

- ・規則性、法則性、関連性等の発見
- ・様々な気づき、発見の喜び
- ・日常生活に必要な言葉の理解
- ・多様な動きや芸術表現のための基礎的な技能の獲得

等



- ・予想、予測、比較、分類、確認
- ・他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさ
- ・振り返り、次への見通し
- ・試行錯誤、工夫
- ・自分なりの表現
- ・表現する喜び 等

- ・言葉による表現、伝え合い

知識・技能の基礎

(遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか)

思考力・判断力・表現力等の基礎

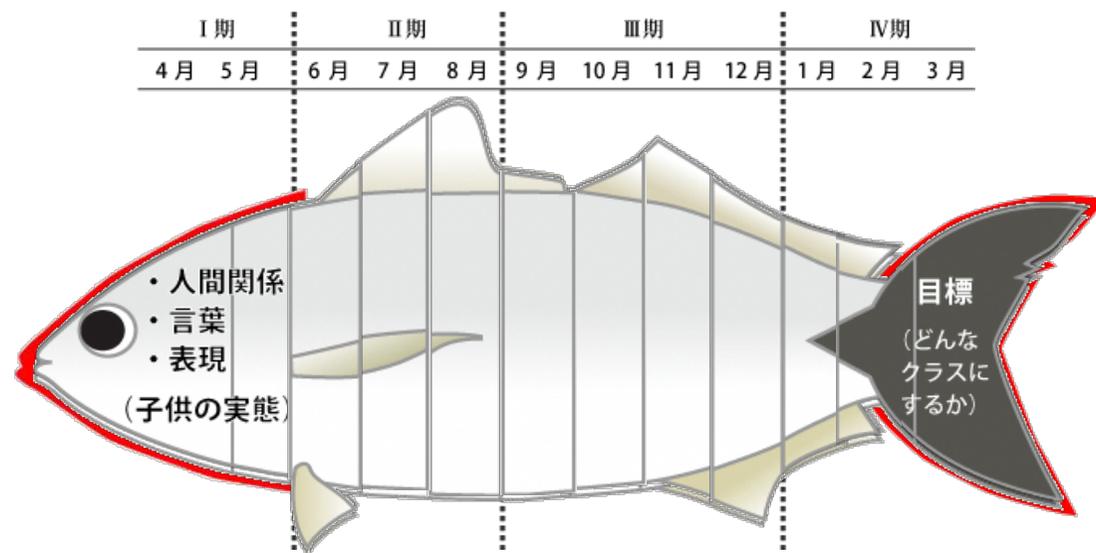
(遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)

保育の計画及び評価



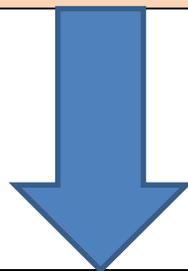
- ・ **子ども理解**
- ・ **目標・ねらい**
- ・ **保育内容：生活・遊び（活動）**
- ・ **保育者のかかわり（環境含む）**
- ・ **振り返り**

年間指導計画から保育実践へ



保育の「ねらい」とは・・・「内容」とは・・・

どのような体験が乳児期に必要 ～ 人として ～



全体的な計画

保育の計画及び評価

食育計画・子育て支援計画・防災計画・地域交流計画・他